令和５年度

学校だより
令和５年６月３０日

さつきが丘　７月号

第３６１号

体験学習が導くもの

校長　仲川　由佳理

６月は、６年生の日光修学旅行と５年生の西湖体験学習の２つの大きな宿泊行事がありました。昨年度から宿泊行事を復活させ、６年生も５年生も２回目の宿泊行事となりました。学校では、この宿泊体験学習は、４年生から６年生までの発達段階の系統性を考慮しながら、学習の目的、そのための場所等を検討してきました。

６年生は、かつては２泊３日の行程で尾瀬高原へ降りて自生植物や動物等との触れ合いを体験することを行っていたようですが、やがて１泊２日となり、昨年度からは「尾瀬高校」の生徒と触れ合う体験をしています。この「尾瀬高校」は、全国から生徒を募集する学校で、正に自然愛好家が集う学校です。彼らが説明する動植物の話はとても魅力的で、その話術、プレゼンの資料が実に見事で、６年生の子どもたちに伝わる興味深い内容でした。今年度は、あの大雨の時期だったため、高校の下にある植物園を見学することはできませんでしたが、映像や実物、書物などを子どもたちの目の前で紹介し、その後は、併設している立派な施設を見学させてくださいました。この体験は、人に説明するには相手意識をもち、どのように資料を準備したり話をしたりすることが効果的であるか、また、本当に動植物を好む子どもたちには絶好の機会だったと思います。

さて、５年生は林業体験が今回の大きな内容でした。森に入ることはあっても、実際に木を伐採することは稀です。インストラクターの方が、なぜ木を伐採するのか、木を育てるにはかなりの年月がいることも説明され、最後に「自然に還す」という言葉も教えてくださいました。SDG's を昨年から学習してきた５年生は、少し学びが繋がった体験だったと思います。インストラクターの方が、木を伐採する際に幹に手を当てて、「ありがとうございます」とそっと声をかける場面がありました。子どもたちは神妙な趣でその場面を見ながら自分たちも幹に手を当て、なぜ、この木を伐採する必要があるのか考えていたようです。その後はグループで協力して、必死に鋸を使い伐採しました。ロープを引っ張ると、目標の方向に木を倒すことができました。本当に凄い体験だったと思います。いろんな意味で非日常体験でしたが、教科書や資料の座学で学ぶことから、実際に自分で体験することは、今後の人生において印象に残るものと期待します。

私たち教師は、子どもたちの将来の職業を決める仕事ではありませんが、子どもたち自身が体験学習を通して、自らの得意な分野に少しでも参考になること、今後さらに追究しようという探求心を抱くきっかけになることを願ってやみません。次は、11 月に４年生が初めての体験学習に出かけます。これからの教育活動とも繋げながら、子どもたちと学習を創っていきたいと思います。